

甲浦湾ブルーカーボン・イノベーションによる地域協働体作り(案)		取組開始時期	2021.7.7	取組の カテゴリー	地域活性化
団体名	東洋町BCI(ブルーカーボン・イノベーション)研究会 <a href="https://toyo-bci.com">https://toyo-bci.com</a>	連携する団体	東洋町海洋資源保全協議会、白浜青年団、ふくちゃんファーム、(株)オランク、(株)高知銀行、東洋町、高知県、内閣府、環境省、経済産業省、水産庁、観光庁		
取組目的	磯焼けが進行している甲浦湾周辺の藻場を再生し、ブルーカーボンと呼ばれる視点から海藻を地域の事業者や団体と協働し、新たな産業変革をもたらす		関連する ゴール		

### 取組詳細(取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等)

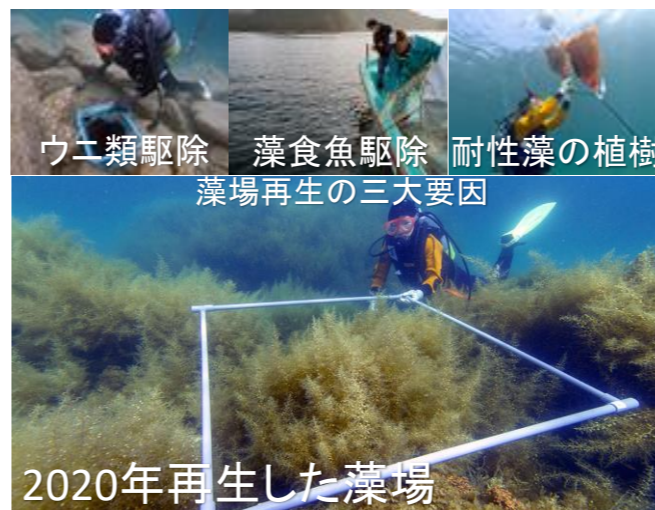
※2018年、かねてより漁業従事者から意見のあった「磯焼け」問題を水産庁の水産多面的機能発揮対策事業を活用し、藻場再生をゴールとした東洋町海洋資源保全協議会が漁業者、ダイビングショップ、漁業協同組合、自治体で共同設立し、活動を開始。県漁連より専門家を派遣してもらい甲浦湾周辺のモニタリング調査を開始した。調査報告では周辺海域の磯焼けと呼ばれる現象は随所に見られ深刻な状況であると提言された。このような事から磯焼け対策事業として専門家指導の元、ダイバーによるウニ駆除、漁業者による藻食魚駆除、専門家による耐性藻の植樹を定期的に開催した。



藻場が減少すると魚の繁殖場が無くなり魚種及び魚量減少につながる。

2年に渡り取り組んだ成果

畑を耕すように海も人が手をかければ再生可能であり、保全することも可能であることが実証された。今後はこの事業を継続するために海藻をどのように活用するのか、様々な視点から考える必要がある事で意見が一致した。



ブルーカーボンとは地球温暖化の最大要因であるCO<sub>2</sub>を海洋生態系が取り込む事をブルー・カーボンと呼び、CO<sub>2</sub>の吸収源対策の新しい選択肢として注目されている。その海洋生態系の中で藻場のCO<sub>2</sub>吸収量は海洋面積全体の1%未満であるにもかかわらず全体量の40%を超えるという試算が発表されている。このような理由から藻場面積を増やすことが地球温暖化防止に大きな役割を果たし、地域に豊かな海を蘇らせると共に、環境保全に貢献する。

### ブルーカーボン・イノベーション

ブルーカーボンを基軸に様々な分野から研究、行動を実践し、持続可能な事業を創造することで社会に新しい価値を作り出す。

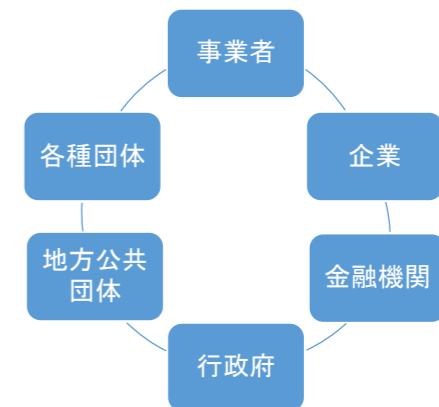


### 取組のポイント(3つの視点)

#### 地方創生SDGsの視点

- ・産官連携で作られた組織。
- ・地域の課題解決に結びつく取組。
- ・持続可能な地域社会の実現に向けた取組
- ・地域経済の好循環を創造する事業

#### ステークホルダーとの連携



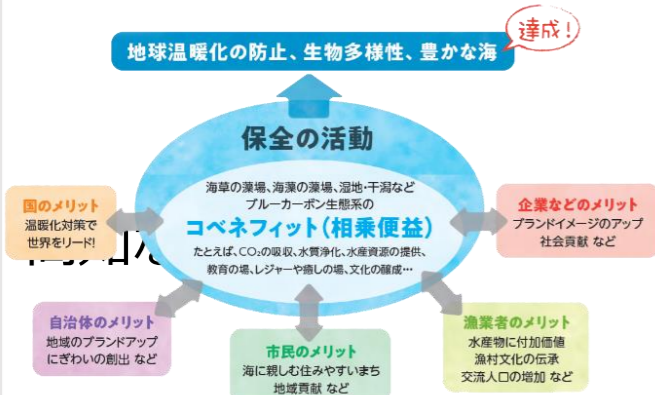
#### モデル性・波及性

地域内の企業、団体が自社の強みを生かしながら協働し、SDGsを推進するとともに地域社会の課題解決につながるビジネス創出に取り組むことでSDGsイノベーションモデルを作り出し、先駆けとなる役割を果たす。



# BCI (ブルーカーボン・イノベーション) 戦略と戦術

地球温暖化防止策の一環としてのブルーカーボン戦略を軸に藻場再生及び生態系の保全活動に積極的に取り組み、地域に様々なコベネフィット(恩恵)をもたらす取組をおこなう。

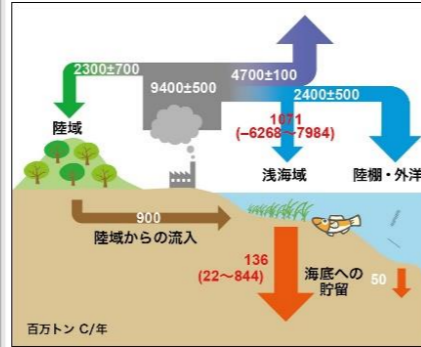


国土交通省港湾局【海の森ブルーカーボン】出典

SDGsの達成に貢献している企業がESG投資の対象となっている事から、その投資に見合う団体活動を行い、地域社会の牽引役としての役割を果たす。

環境 (Environment)、社会 (Social)、企業統治 (Governance) の3つの観点から行おう、その頭文字をとってESGといい、ESGに配慮した責任ある投資をESG投資という

## BCIラーニング・プロジェクト ブルーカーボンを学ぶ



**学びと出会いの提供**  
ブルーカーボンについての専門家を招聘し、基礎学習から応用学習まで学びの場を作る。地域の協力者を探すためのワークショップやより分かりやすくするためのフィールドワークなどにも工夫する。また専門家と交流することにより学ぶことの面白さや楽しさなどより多くの刺激も得られ人間教育としての場ともなるのではと期待している。

## BCI人材発掘・育成・プロジェクト 持続可能なヒューマン・リソース



**市民活動やイベントからヒューマンリソースを発掘**  
環境保全活動や美化活動など積極性を持つ人を見つけリーダー育成をおこなう

**エンパワーメントによる人材育成**  
役が人を育てるといわれるようにエンパワーメント(権限委譲)によりSDGsを意識した役割分担を行い人を育てる

### BCI戦術4つの柱

## BCIマーケティング・プロジェクト 様々な視点から課題解決策を探る



SDGsウエディングケーキモデル

**理念**  
持続可能な消費と生産のパターンを確保する  
**概念**  
企業は経済、環境、社会の担い手  
**検証**  
SDGs活動の事業マッピング  
**ゴール**  
明確なKGIとKPIを設定し、企業が与える社会的インパクトの可視化

## BCIチームビルディング・プロジェクト 地域内外の協力者を造る



**Society (ソサエティ)5.0とDX**  
IoTやAIなど最先端テクノロジーを有する大学や組織などに協力を求め事業実現性をより高める

**DXの価値拡張**  
サステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)とは、新たな視点からのビジネス変革

**新たな企業価値の創造にはSDGsを意識したSX化は加速すると思われる。このような企業とタイアップした協力体制を構築する**

## BCIのSDGs 的具体的な開発目標 (アクションプラン)

**8 働きがいも経済成長も**  
イノベーションを通じて、新たな経済、生産性を創造する

- 2025年までに地域商社を設立し、地域経済及び地域雇用を新たに生み出す。
- 2025年までに藻場再生事業を近隣地域に広げ、広域連携を強める

**13 気候変動に具体的な対策を**  
気候変動とその影響を深く学び、その対策を練り実践する

- 2025年までに藻場面積を倍増し、CO<sup>2</sup>吸収量を可視化する
- 気候変動対策を専門家より学び、地域の政策や戦略、計画に統合する。

**14 海の豊かさを守ろう**  
海と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

- 2025年までに、BCI活動を漁業や水産養殖、観光業などに転嫁し、経済的便益を増やす。
- 海洋の健全性を改善し、生物多様性が高まるよう開発に貢献する

**15 陸の豊かさも守ろう**  
陸上生態系の保護、森林の持続可能な管理をし生物多様性の損失を阻止する

- 広葉樹の植樹活動に積極的に参加し海山川のつながりを強める

**17 パートナリシップで目標を達成しよう**  
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し広域連携を活性化させる

- ステークホルダーと協議し、持続可能な開発政策の一貫性を強める
- パートナーシップ協定を結びビジョンの共有及び政策協調を通じて、地域経済の発展を高める。

**日本政府のSDGs中長期国家戦略**  
課題解決先進国として、SDGsの実施に向けた世界の模範国へ

SDGs 17の目標 169のターゲット

SDGs実施指針には特に取り組むべき8つの優先課題が掲げられている

1. 長寿の達成
2. 長寿の達成
3. 長寿の達成
4. 長寿の達成
5. 長寿の達成
6. 長寿の達成
7. 長寿の達成
8. 長寿の達成

SDGsモデルを世界に発信

SDGsの抱い手としての次世代・女性のエンパワーメント

SDGsを原動力とした地方創生

SDGsアクションプラン2020